

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」



事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 京都市立西京高等学校定時制 】

1 実践テーマ	Ⅲ ・ V
2 実施対象者	3年 3クラス 36名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (3年人権学習)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	「車いすバスケット」体験を通じて、障がいのある方々についての理解を深める。また、選手との対話から、すべての人が互いに支え合い共存していく社会の一員として成長し、自らの生き方について考える機会とする。
5 取組内容	<p>《事前学習》</p> <p>1) 掲示物 ① ② 作成 掲示 生徒に車いすバスケットボールに関心を持ってもらうための掲示物を作り、2週×2回に分けて掲示した。</p> <p>2) 11月20日(水) 3限(LHR) 1階会議室 VTR～めざせ2020年のパラリンピアン「車いすバスケット・鳥海連志」～鑑賞 生まれつき手と足の障がいを持ちながら同世代でパラリンピックを目指す鳥海選手が、代表選手の助言を受けながら自らの壁に取り組む姿を見る。また、このビデオはリオ以前に撮影されたものなので、現在の鳥海選手が試合で活躍している様子(NHK「パラマニア～車いすバスケット～」より)も追加で鑑賞した。</p> <p>《車いす体験学習》</p> <p>11月27日(水) 2・3限(LHR) 本校アリーナ 車いすバスケットボールチーム京都UPSから山本選手、福田選手の2名を招いて、車いすバスケットボールの体験学習を行った。</p>

	<p>まず最初に、車いすバスケットボールの簡単なルールと操作方法を前で実演していただいてから、順番に生徒たちの車いす体験を行った。「前に進む」、「後ろに進む」はなんとかこなせても、ドリブルをしながらの車いす操作は難易度が高く、ボールが手から離れてしまいそうになるのを何度も追いかけてながらも、どの生徒も一生懸命取り組んでいた。</p> <p>車いすの操作になれたところで、クラス対抗で試合を行った。本校の特徴は人数が少ないことなので、全員が試合に参加することができる。試合が始まると、普段教室の中では静かなおとなしい生徒も、やんちゃで勉強が苦手な生徒も、生き生きと一つのボールを追いかけていた姿が印象的だった。</p> <p>試合終了後、山本選手から、自身の体験をお話しいただいた。障がいのきっかけが、バイク事故であったことは、バイク通学が多い本校の生徒には、心に感じるものが多かったように思う。誰にでも起こりうること、だけど、それでも前を向いて人生に臨んでいらっしゃる姿は、これから卒業して社会に出て行く生徒にとっては力強いエールになったようだ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>《事後学習》 12月 4日(水) 3限(LHR) HR教室 本来は体験学習の後、その場でアンケートを書き、それをまとめて返す形で事後学習を行う予定だったが、体験時間が伸びたため、時間内にアンケートを書くことができなかった。そのため、次の週のLHRの時間にアンケート記入を行った。</p>
<p>6 主な成果</p>	<p>事前学習からは生まれつきの障がいに向かい合う姿、体験学習からは社会人になってからの事故での障害に向き合ってきた姿を学ぶことができた。特に山本選手のお話から、障がいというものが遠い話ではなく身近なものとして受け止め、一人一人が今の自分に落とし込んでこれからのことを考えることができた。</p> <p>また、事前アンケートではオリンピック・パラリンピックへの関心が皆無に近かったが、実際の競技を目にしたことでパラリンピックへの関心を持つ生徒が増えた。</p> <p>《以下生徒の感想より》 ○普段乗り慣れていないから、移動するのもにも苦労したし、腕もかなり疲れた。車いすは押したことはあっても、あまり乗ったことがなかったので、よい経験ができた。 ○下半身が使えないというのはとても不便だし、苦しいという事が分かりました。事故の瞬間も思い出したくないのに、話して下さいととても感謝しています。</p>

	<p>○車いすの生活が不便なことは知ってたけど、細かいところまでは気づけてなかったし、まだたくさん使いにくかったり、行きにくい場所があるのを知りました。これからは、もっと他の人のことも考えて生活したいです。</p> <p>○思わぬ事故で障害を背負って、最初はおちこんだけど、リハビリの病院に行って同じような仲間と出会い車いすバスケットに出会ってと言う話を聞いて、すごくいきいきしてはったし、今を楽しんでいる姿を見て、私ももっと頑張ろうと思えたし、元気が出ました！</p> <p>○ある日とつぜん下半身が動かなくなって、自分だけで移動ができない状況になったけど、自分だけでなく世界には同じ境遇の人がいっぱいいる。もしかしたら自分より悪い状態の人もいると思うと、自分はまだがんばれるという気持ちがよく分かった。</p> <p>○自由が少なくなったと同時に、挑戦できる物が増えたことを知り、生き甲斐があることに安心した。</p> <p>○人には人の数の人生があると実感して、障がいを持って生まれた人も障がいを後から持った人も皆、笑顔で人生を楽しんでいたのだから、障がいを持ってる持っていないは関係がないと思った。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>少人数の学校なので、全員が車いすに乗る体験をし、全員が試合に参加できる。実際に身体を動かした後に、選手の方自身の話を聞くので、より自分の問題として捉えることができる。</p>
8主な課題等	<p>今年度は、実施日が他校と重なったため、車いすバスケットボール用の車いすを借りる先に困った。</p> <p>最終的には借りることができたが、3 か月前まで予約を決定することができず、借りられなかった時の日程変更のことまで考えなければならなかった。</p> <p>このオリパラ事業の予算がずっと続くのか気になっている。非常に生徒の反応がよい学習なので、来年以降もぜひ行いたいですが、補助予算がなくなると、車いす運搬費や講師費を校内で捻出するのは難しいと思っている。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>卒業し社会に出て行くことを目前に控えている3年生には、障がい者との共生だけではなく、『壁にぶつかった時に何度でも乗り越えることができるのだ』という姿を身をもって見せていただける貴重な機会になっている。予算が許す限り、今後もぜひ行いたい。</p>